

第89号

2011.2.15

社会福祉法人 いわき福音協会

福島整肢療護園

〒970-8001

福島県いわき市平上平窪字

古館1番地の2

TEL.0246-25-8131

FAX.0246-22-1259

http://www.ryogoen.jp/

E-mail.info@ryogoen.jp

# ひかりの丘



12/18(土)に希望館(リハビリ棟)を会場に開催されたクリスマス祝会での一コマ。クリスマス祝会の様子については本誌第5面

レッツゴー! **りょうご園のクリスマス裏話**へ(P5)

## 目次

クリスマス祝会の様子— 1

Happy通信「としあきさんのHappy」— 2

Happy通信「ひろ絵さんのHappy」— 3

社会へGO! リハビリテーション課 課長 相澤幸代— 4

障害者相談支援従事者研修を受講して  
第3病棟看護師長 寒河江由喜子— 4

りょうご園のクリスマス裏話— 5

りょうご園についてご存知ですか?

『ドライバー-Mr.Matsumoto』について— 6

りょうご園カフェへようこそ— 6

編集後記— 6

# Happy通信



「としさん(寿章さんの愛称)起きてー!」  
朝病棟に迎えに行くときぐっすり睡眠中。

「今日は起きてる!」そんな日でも周囲の様子をただ穏やかに見ている、としさん。

そんな、としさんが楽しんでできる活動はないかと、私は昨年担当になってから考えていきました。きっかけになったのはベッドの横で流れていた演歌でした。

ラジカセにスイッチをつなげて、としさんがスイッチを押している間演歌が流れるように準備。初めはほとんど興味を示さず、寝入ってしまうこともあり。活動を始めて3ヶ月、時々につこりと笑顔を見せ、指を小さく上下に動かしてスイッチを操作し、演歌が流れたり、止まったりしているのを楽しんでいるように見えます。これからも、としさんのペースで、としさんと一緒に楽しみを見つけていきたいです。 作業療法士 森みなみ



療護園には様々なスイッチがあります。音声が出るものや、玩具やパソコンを単純な動きで動かすものなど。その色や形も多様です。

重度の運動障害をもったお子さんの中には、興味のある玩具を触りたくても手を伸ばす事が難しかったり、操作するために手を細かく動かすことが難しい場合があります。リハビリでは、スイッチを操作することで、誰かの力で操作されている玩具を見たり楽しんだりするのはなく、主体的に自分の力で玩具を動かして遊べるよう関わりをもっています。



## としあきさんのHappy

流れてくるのは日本の心??  
昼間のリハ棟からは、どこからともなく「演歌」が聞こえてくるのです。

生まれて数ヶ月でひきつけを起こしてから寝たきりの人生となりましたが、それでも小さい時から音と光と体を動かされるのが大好きでした。その中でも音に対しては常に家の中でテレビを付けたままの生活が中心となっていて、そこには動けない息子に少しでも何かに向けてもらいたいという母親の深い思いがあったと思います。

また、20才位迄は時間があれば車で外出をしてどんな所にも行っていました。その結果が体の動きはままならない状態ですが、目、耳、体への刺激等に良かったのかと思われま。

歌に対しては両親共に昔の歌が好きなので、その影響で本人も好きになっていたのだらうと思います。

寿章さんのお父さん  
鈴木正尊さん  
からのコメント



ボタンを押している間電気が流れます。コンセントを差し込む玩具で使えます

今回は第3病棟のとしあきさんの  
ハッピーと外来で通院されている  
紺野さんからのハッピーです。

## ひろ絵さんのHappy

わたしとお母さんのハッピーを  
みなさんにもおすそわけ  
スマイルいっぱい♡ ハッピーいっぱい♡

当園の受付でみなさんをお出迎えする鉢花や切り花。  
昨年11月には鮮やかな「シャコバサボテン」、今年1月  
には「蠟梅(ろうばい)」がほんのり香りました。そのお花、  
じつは外来の紺野ひろ絵さんのお母さんが丁寧に育て  
たお花たちです。

現在は多彩な趣味を楽しんでいらっしゃるお母さん  
ですが、ひろ絵さんが四才ころまでは「道ばたの花にも  
気づけないほど余裕がなかった」とおっしゃいます。そ  
の経験から「いま頑張っているお母さんたちに少しでも  
“ほっ”としてもらえたら」とお花をお持ちいただくよう  
になりました。

寒い冬でも元気に咲いているお花を見ると、とっても  
HAPPYな気分になります。みなさんも来園の際には  
ぜひご覧になってくださいね。



ひろ絵さんとお母さん  
「リハビリには水曜日の  
午前中に来ています。  
見かけたら声をかけてね♡」



蠟梅(ろうばい)と  
クリスマスローズ



シャコバサボテン

「シャコバサボテン(通称かにのつめ)」は秋～冬が見頃。11月中頃  
まで鮮やかな花を咲かせ、現在は  
ご自宅の日当たりのよい場所で休眠中。2月のおすすめ  
は「蠟梅(ろうばい)」「紅梅(こうばい)」だそうです。

### ～ひろ絵さんのお母さんより～

一才八ヶ月だったひろ絵。二才上の兄と活発に動き回り、女  
の子なの？母は振り回され通してでした。何の前ぶれもなく突然  
の病に倒れ一度は消えかけたちいさな命。聴力だけを残し全  
ての機能が失くなってしまったね。チューブからの栄養補給。  
母は諦めきれず、自然食を学び口から食べる訓練を続け半年後  
にはチューブにさよならできたね。その後いわき母子訓練セン  
ターに三年九ヶ月通園し、笑える事、排泄のサインを指一本で  
器用に出せる事、バギーで風を切って走るここ地良さ…守る  
事だけで生活していた母子にとって、特に母にとっては、障害を  
持つ子を受け入れる袋をしっかり仕立てられた時間だったね。

他に目を向ける事ができるようになった陰で、ほっと足元の  
小さな花にも優しくなれたね。いつもひろ絵が傍に居てくれた  
からだね。ありがとう。

今は週2回、生活介護センターで利用者さんに声をかけてい  
ただき笑顔で返せる時が多くなったね。月2回のリハビリも二  
次障害を最小限に、あなたの負担が重くならないためにも、教  
わりながら続けましょう。

今日も道ばたの小さな花は、誰かが気づいてほんの少し心を  
休めて欲しい…そう思いながら寒い日も精一杯のおしゃれを  
して待っているかもね。

あれから二十二年、気力も体力も薄らくこの頃、叶うのなら、  
ぐっと母の肩や首に掴まることのできるあなたのその手に力が  
欲しい。



ご自宅は手作りのも  
のでいっぱいです。



以前は学校に行けない不登校児が多いと言われ、最近では家から一歩も出ない引きこもりが多いそうです。五体満足に生

19年前、療護園に就職当時は子ども達をどう評価し、自分が何をできるのか、わからないことだらけで文字通り手も足も出ない理学療法士でした。こんな時、ポイタ法を研修したのは大きな救いでした。ポイタ法は正常な運動発達を運動学的に分析することで、障害をもった子どもさんを評価し、治療します。つまり正常発達の理解が鍵になります。研修後も保育書を読みあさり、保育園の0歳児室に通ってビデオや写真を撮り、正常の幅の広さに戸惑い、異常との違いについて悩みました。しかしいつか驚かされるのは0歳児の膨大な生命エネルギーです。1つの運動が次の運動に結びつく時の、何度も何度も繰り返される動き、1つのおもちゃを飽きずに光にかざし、角度を変えながら見続ける動作、何ひとつ無駄なく脳の栄養になってるんだと感じます。

まれ育ったのにもつたない。生命エネルギーを何時なくしたのでしょう？

19年前、療護園に通っていた子どもさんが社会人や大学生になりました。歩き方に左右差があっても、クランチを肩からずらして背負っていても(理学療法士よ！もつと！)しっかりしろ、社会に出て自分の欲しいものを手に入れていきます。「自立」という生命エネルギーを感じます。嬉しいですね。重度の子どもさんも作業所やデイケアに通っています。社会とのつながりを保ち、誰とでも、何処でも機嫌良く食事ができ(経営栄養でも)、体調を崩さず、生活リズムが安定し社会参加している。嬉しいですね。療護園のこともさんと親さん(おばあちゃん、おばさん)も関わって頂いている皆さんすべてはとても優秀です。

それで、私が子どもさんを見る時、生命エネルギーはどうか？と見ます。全体的なエネルギー量は？自分から目的行動、探索活動ができるか？環境への対応は？感情の切り替えができるか？自分らしさ



が出せるか？などです。もう一つ大切なのは親さんの子どもに向き合う姿勢です。親さんが精神的に混乱したり、不安定だともどもは育ちません。そんな時はポイタ法の家庭訓練を指導します。親さん自身がこどもを良くできることを実感して自信を持ってもらおう。つまり療育者として腹をくくってもらうんです。後は期限付きの目標に向かうだけ。次の目標は何か、どんな動きを引き出せばいいのか、それにはどんな遊び方や注意が必要かを提示します。期間を区切って一つ一つコツコツと励まし合い、喜び合いながら、目標を積み重ねて、前歯が欠ける頃、小学校という初めての社会に送り出します。一安心しそれから次の目標を目指して。

障害を持っていても病気ではない、引きこもりではない。たくさんさんの生命エネルギーをもって社会に参加し、楽しみ自己主張していけるように親さんと二人三脚していこうと思えます。

**障害者相談支援 (障害者ケアマネジメント) 従事者研修を受講して**

第3病棟看護師長 寒河江由喜子

今回の研修は、平成25年8月の障害者総合福祉法(仮称)制定に向けた情勢の中、昨年9月に障害者ケアマネジメントの知識や技術を学ぶことを目的に参加しました。障害者ケアマネジメントとは、「障害者の地域における生活を支援するために、ニーズを踏まえてサービスが適切に実施されているか管理・調整する援助方法」で、マネジメントにおいて重要な点は、ニーズを把握することです。利用者の想いを掴むためには相手と同じ絵を描くつもりで向き合うことが大切で、想いを表現するためには「できない」ではなく「何ができるか」と能力を引き出す発想の転換が必要です。その際に注意することは、私達・支援者が経験を積みと陥りやすい自分の価値観を押しつけ権利を侵害しないことです。障害者の権利擁護は、権利を守り保障していくことで、ケアマネジメントにおいては相手の能力に応じた選択肢(情報)

を提供し、本人が決められるようにしていくことで、「本人主体」「自己決定」が基本的考え方であると学びました。

私は、重症心身障害児施設に従事する看護師として、どの位の情報を利用者へ提供できるかを考えさせられました。医療的な視点は専門職として当然ですが、「…だから無理だ」と決めつけるのではなく、「できることは何か」を本人と同じ位置で考えなければいけない。また、自分の意思や感情を表出できない障害者にとっては、私達・支援者が一人ひとりの表出を受け止め、家族の気持ちも理解しながら関わっていくことが大切であると思えました。

今後は、重症心身障害児施設から「療養介護施設」へ移行予定ですが、利用者一人ひとりが「自分らしく生きる」とができるように看護していきたくと改めて考えます。



# りょうご園のクリスマス裏話



りょうご園にもサンタさん(クリスマス)がやってきました。ステキなクリスマスになるようにみんなで魔法をかけてみたところ…笑顔の雪が舞い踊りました♪



## クリスマスに向け園内を装飾したときには…

保育士 佐伯 悦子・佐々木 博江

子どもたちの微笑んでいる姿を思い浮かべながらの作業はいろいろなアイデアが閃き楽しいものです。きれいに飾れてそれを見た子どもたちの目がキラキラになることは保育士の醍醐味です。



## クリスマス祝会 会場準備のときには…

総看護師長 橋本 澄子

青いシートに皆の夢が広がる。上を向いて、背伸びして天井につり下げた、ミラーボールに星マーク。いつものリハビリ棟(PT室)があっという間に夢の世界へ…サンタさんの登場を楽しみに。



## 職員聖歌隊による賛美歌も…

事務 藤井 真理



吉原先生をリーダーに約一ヶ月間猛特訓(汗)



クリスマス祝会では踊っちゃいました♪



## クリスマス祝会でステキな演奏を披露してくれたスリッパのメンバーは…

スリッパ(MAYA/HARUKA/KAZUMA)

緊張したけど皆で楽しく発表できて良かったし、1病棟と3病棟が一つになって音楽を楽しめたと思います。



## いつもの散歩カーが変身…

保育士 菅野 克信

クリスマス祝会ではサンタさんが飛び出したよね～♪



# りょうご園についてご存知ですか？

今回は子供達の社会訓練や行事、他科受診、時にはJRC活動の高校生の送迎を行っている、当園の運転手のお仕事を紹介します。

## ●ドライバー=Mr.Matsumotoについて

松本光司さん(事務主任)は、平成5年4月に入社して以来、17年間、利用者の安全を守り、安心される運転、そして事故を貰わない運転(危険を予測しての早めの対応)を心がけている光司さん。以前、某自動車学校の教官をしていた

だけあって、運転の技術・心構えは一級品です。また市内の道路も詳しく、花見や買い物、アクアマリンやJヴィレッジなどの行事では子供達が喜びそうなコースの選択にも一役買っています。※おすすめは四倉～小名浜の海岸コースだそうです。

行事に参加する事、車に乗る事を楽しみにしている子供達はその選んだコースに大はしゃぎ、子供達の笑顔が好きな光司さんが運転業務の中で一

番に充実感を味わえる時だそうです。

とある新人スタッフのギター持参によるヘタ歌!?を聞かされたり、世の女性に後



◀第1病棟社会訓練の様子▶

方から隔られながらも日々運転業務に従事している光司さんが最近抱えている悩み、それは

「運転業務が減ってきたなあ(本人談)」

以前は球技大会で福島や会津に行ったり、毎週水曜日には他科受診で多忙でしたが、今は業者対応や修繕対応といった事務業務が主となり、活躍の場の方向性が変わってきた事です。

運転業務に使命と楽しさを感じている光司さんから最後にひと言。

「スピードを出さずに、車間距離を開けて、安全運転を心がけよう。」

そして

「要望があれば世界の果てまでどこへでも行ってQです。」

だそうデ～ス。



◀他科受診の際に介助を行う光司さん▶



このコーナーでは、当園のスタッフが好きなこと、気になることなどを自由におしゃべりします。スタッフの新たな一面がわかるかも! 第5回は、第3病棟 看護課長の草野初江さんです。

### 『花に思いをよせて』

療護園でのいけばな教室が花との初めての出逢いです。自宅に花でもかざれば素敵かなと軽い気持ちで参加しましたが、花の美しさに魅せられて13年を迎えました。いけばなというと地味、古くさい作法が大変というイメージがあり、畳でのお座りで足がしびれそうとか思っていたのですが、テーブルに椅子と楽な姿勢でできます。花材も和花はもちろん洋花の種類も多く現代的ないけ方になってます。もちろん、日本古来の伝統的ないけ方も代々受けつがれています。

今は月一回の研究会に参加、貴重な

休みを利用して稽古しています。続けることは時間的に苦しいこともありますが、いける時はすべてを忘れることができる瞬間です。又、花展を観賞、すばらしい作品に感動し自分をふるいたせてます。

私にとって花は癒しです。気持ちをおだやかにして活力を与えてくれるビタミン剤です。

自分でいけた花を眺めながらコーヒーを一杯いただくのが至福のひとつです。(お茶でないのが私流です笑!!)

皆さんも機会がありましたら花展をのぞいてみて下さい。心にゆとりがもて少しだけ幸福を感じますよ。



## 編集後記

どちらかといえば花より団子のわたしですが、今号のお花にまつわる取材で、冬の花のかわいらしさに魅了されました。特に「蠟梅(ろうばい)」の黄色く艶やかなお花のかわいらしさ!ほんのり香るよい香りにも癒されます。恥ずかしながらほとんどお花の知識がなかったのですが、紺野さんはじめ当園のスタッフにも花の名前や特徴を教えてもらったり、一緒に香りを楽しんだりして、花をきっかけにしたコミュニケーションの輪がひろがりました。

今号の「ひかりの丘」も委員全員の気持ちを込めてみなさんにお届けします。「ひかりの丘」を通じて当園とみなさんとの輪がたくさんつながっていければうれしいです。ぜひご意見、ご感想をお寄せください。(本)